



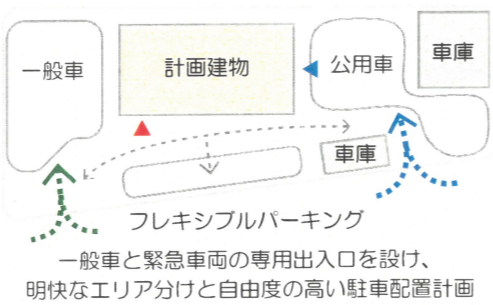
ゆったりと水平に広がる屋根と軒の重なりから生まれる
わかりやすい浪江町の警察庁舎のイメージ図

浪江町は福島県の最東端に位置し、福島の中で一番最初に日が昇る場所です。酒蔵、漁港、焼き物、宿場町の名残を残しながら、文化を醸成してきた歴史を持ちます。近年では再開発、最先端の研究施設が生まれつつある一方、万博で話題となった木の産業、浪江町の姿も育まれつつある状況です。私たちは木と共に歩む浪江町の姿を未来へ思い描きながら、地域住民を長く守り続ける警察庁舎をつくります。

1 県民の利便性に配慮し、必要なセキュリティが確保された庁舎の提案

○ 敷地形状と既存建物を活かした配置計画
南向きの警察庁舎とし、県道からわかりやすい庁舎とします。駐車場は西側に一般利用者、東側を公用駐車場。南側の駐車場をフレキシブルパーキングとし、利用目的によって柔軟に駐車台数を可変できるものとします。

○ プラザとホームの2つのエリア
1階はプラザとホームにセキュリティラインで明確に2つに区分けします。プラザは一般利用者のエリア。ホームは職員エリア。ホームは「リビングスペース」と「ワークスペース」から成り、自分の家のように心が休まる場所と集中して仕事をする場所を両立。2階は秘匿性の高い部屋と設備空間とし、セキュリティレベルを上げた断面計画とします。



受付には多言語サインや車いす用のローカウンターを採用
みんなに使いやすい待合空間のイメージ図

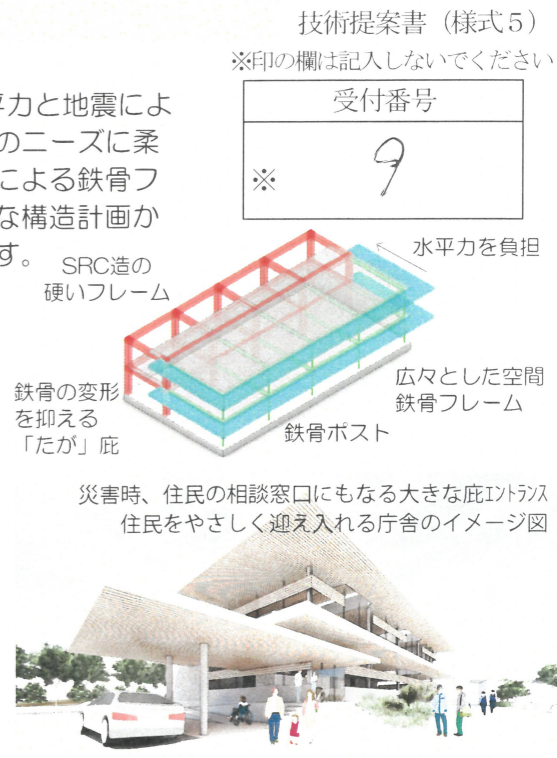


2 県民の安全・安心の拠点となる庁舎の提案

○ 災害や地震に強く、開放的で明るい構造計画
構造は鉄骨造とSRC造のハイブリッド構造。堅固なSRC造のコア部分で水平力と地震による変形を負担。耐震性能の確保と大空間の両立が可能な構法を採用し、将来のニーズに柔軟に対応できる長期的、継続的視点を持った構造とします。大きな庇は地震による鉄骨フレームの変形を抑制する「たが」のような役目を果たします。また、合理的な構造計画から躯体の軽量化・構造部材の縮小を図り、インシタルコストの縮減に努めます。

○ レジリエントな庁舎づくり、電源・熱源の多重化
自然エネルギーを活用した断熱性の高いパッシブ型庁舎とすることで非常時の電力消費に強く影響を及ぼす空調電力の負荷を軽減します。これにより非常時に通信室等、重要室の空調・換気・照明、重要機器への電源供給を確保なものとし、BCPに強い庁舎とします。その他、受水槽や雨水貯留槽により、一定期間の飲料水や洗浄水を確保。汚水貯留槽により、インフラ破損時にもトイレを利用可能。ライフラインの多重化を行います。

○ 情報通信機器への配慮
精密機器の通信設備は地震による衝突・倒壊・破損を起こした場合、警察機能が麻痺し根幹にかかわる大問題となります。そのため通信機械室の免震床や免震架台を検討します。また、通信設備電源やその他重要機器電源にはSPD（避雷器）を設置し落雷から保護します。



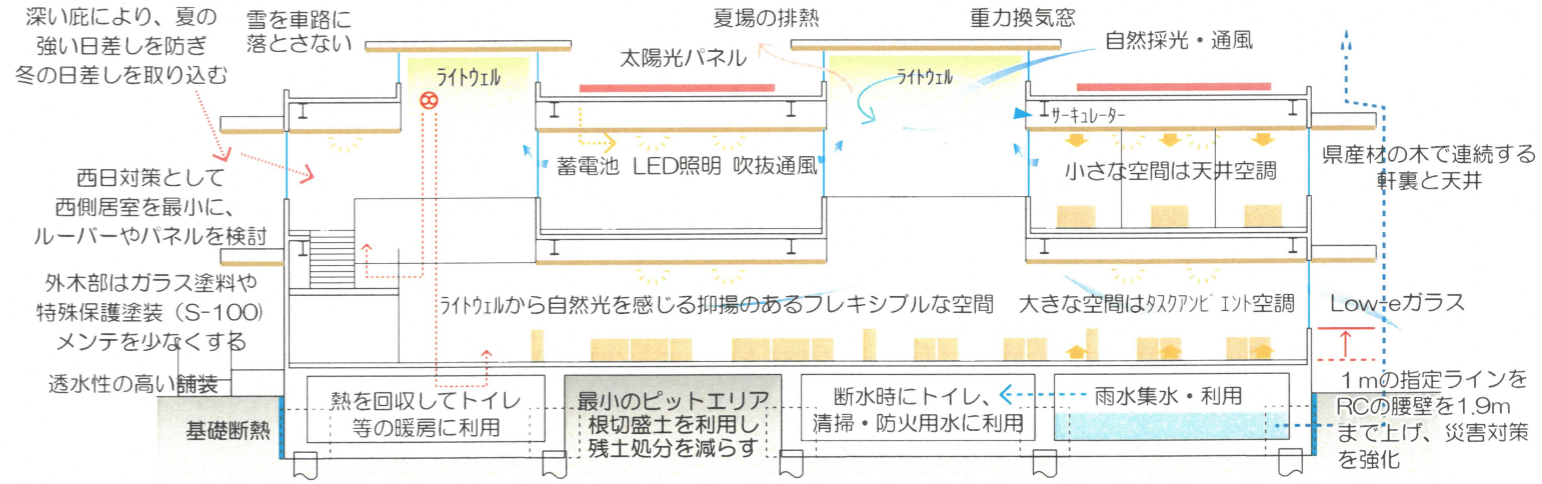
3 人にやさしく、環境に配慮した庁舎の提案

○ 最小限の力で最大限の効果 環境共生型庁舎
浪江町の光・風・水・緑等の自然エネルギーを活用し、パッシブ（建築）とアクティブ（設備）の適切なバランスから、熱負荷ロスや消費エネルギーを抑える計画とします。ライトウェルは重力換気・排熱・自然採光・採暖をするパッシブ装置です。また、職員の24時間勤務に配慮し、きめ細やかなタスクアンビエント照明・空調を採用します。

○ 整形のコンパクトな庁舎
凸凹の少ないコンパクトな平面・外皮面積の少ない形状とし、環境負荷低減を図ります。吹抜けを設け、開放的なプラザや天井面の圧迫感を感じさせないワークスペースを作り込みます。

○ 数値では測れない、人の五感に響くこちよ空間
○ ZEB Ready 以上の環境目標値達成とユニバーサルな庁舎計画

私たちが目指すこちよ空間
温もり感 県産材の木を内外装材に利用、木の香り、木の肌触り
郷愁感 大堀相馬焼きのサイン、夕方まちに響く夕焼け小焼け
視覚にやさしい光 自然採光、色温度、照度、間接光、素材の光
リフレッシュ感 そよ風、自然通風、風道、ちょっと一息休憩
開放感 吹抜け空間、自分で開閉可能な窓、見通しのよいフロア
心地よい音 適度な騒音感、落ち着いて相談ができる静けさ
清潔感 色彩計画、自然換気、適切に分散された倉庫



4 社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎の提案

○ 抑揚感を感じるオープンフロア（ワークスペース）
柱無空間の開放的なワークスペースは仕切りやパーティション、ブースの配置によって使い方を限定しない自由なレイアウトが可能なフロアとします。

○ これからの50年を考えた浪江町のモデル型庁舎
CO2を吸収し成長する木材を起点とした浪江町の環境サイクルを検討。メンテナンスや維持管理を地域スケールで「お互いに助け合う」自立型モデル庁舎を提案します。

